

| | |
|------------------|---|
| Title | 活動報告 |
| Sub Title | |
| Author | |
| Publisher | 慶應義塾大学グローバルCOEプログラム論理と感性の先端的教育研究拠点 |
| Publication year | 2008 |
| Jtitle | Newsletter Vol.4, (2008. 7) ,p.7- 7 |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | |
| Genre | Research Paper |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002003-00000004-0007 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

活動報告

| 開催日 | 研究・運営プログラム名 | 会議等の名称 |
|-------|-------------|-------------------|
| 4月2日 | 脳と進化班 | 第9回 脳の講習会 |
| 4月4日 | 言語と認知班 | 意味論研究会 |
| 4月5日 | 脳と進化班 | 第10回 脳の講習会 |
| 4月9日 | 脳と進化班 | 第11回 脳の講習会 |
| 4月16日 | 脳と進化班 | 第12回 脳の講習会 |
| 4月19日 | 脳と進化班 | 第13回 脳の講習会 |
| 4月22日 | 遺伝と発達班 | 鳥の歌から言語と教育の起源を考える |
| 4月26日 | 脳と進化班 | 第14回 脳の講習会 |
| 5月7日 | 脳と進化班 | 第15回 脳の講習会 |
| 5月10日 | 脳と進化班 | 第16回 脳の講習会 |
| 5月13日 | 遺伝と発達班 | チンパンジーに教育はあるのか |
| 5月14日 | 脳と進化班 | 第17回 脳の講習会 |
| 5月17日 | 脳と進化班 | 第18回 脳の講習会 |
| 5月21日 | 脳と進化班 | 第19回 脳の講習会 |
| 6月7日 | 脳と進化班 | 第20回 脳の講習会 |
| 6月10日 | 遺伝と発達班 | 内的環境への適応と教育 |
| 6月14日 | 脳と進化班 | 第21回 脳の講習会 |
| 6月21日 | 脳と進化班 | 第22回 脳の講習会 |
| 6月28日 | 脳と進化班 | 第23回 脳の講習会 |

読み能力の生物学基盤：脳科学と行動遺伝学の視点から (3月24日開催)

2008年3月24日、「Biology of reading: Brain science and behavioral genetic perspective (読み能力の生物学基盤：脳科学と行動遺伝学の視点から)」と題する国際シンポジウムを行いました。読み能力とその障害であるディスレクシア(読字障害)は、現在、その遺伝学的、脳科学的基盤の追及が盛んに行われている領域で、遺伝・発達班の双生児プロジェクトでは、幼児のかな読みの能力の獲得に焦点を当て、現在データを収集しつつあります。このわれわれのプロジェクトの火付け役となっているのが、英語圏での読み能力の発達とディスレクシア(読字障害)の双生児縦断研究を進めている国際研究チームで、この領域を牽引する3人の著名な研究者をお招きしました。なかでも John C. DeFries 博士はコロラド大学行動遺伝学研究所長を長らく務め、認知能力や言語能力の双生児研究で数多くの先駆的業績を上げてきた人間行動遺伝学の世界的指導者、Richard Olson 博士(同じくコロラド大学)と Brian Byrne 博士(ニューイングランド大学・オーストラリア)は言語発達の行動遺伝学研究で著名な研究者です。またかなと漢字の読みに関するfMRI研究をオックスフォード大学生理学部で博士号を取って来たばかりの若手日本人研究者である小山麻紀さんから紹介してもらいました。

Byrne 博士からは、音韻意識、語彙、単語読み、スペリングなど子どもの読み能力に諸側面に及ぼす遺伝の影響が幼児期から児童期にかけて増大し、または共通な遺伝要因が関与していることなどが紹介されました。また Olson 博士からはディスレクシアの遺伝子はAD/HDの遺伝子とも重なっている可能性があり、DCDC2やKIAA0319という遺伝子がある候補であること、さらに教育的介入の実践について話がありました。DeFries 博士は discussant として、こうした遺伝研究を日本語という異なる音韻・表記体系の言語について行うことの意義についてのコメントがなされ、まだ始まったばかりのわれわれの双生児プロジェクトを鼓舞してくれました。

(安藤寿康)



脳の講習会 (3月3日開催～)

1980年代以降の脳機能画像法の発達により、ヒトが様々な心的活動を行なっているときの脳の活動を外から非侵襲的に記録することが可能になった。その結果、文系の学問があつたテーマ(例えば、認知、言語、情動、倫理など)と脳の間を接続する学問領域、認知神経科学が成立し、急速に発展している。慶應義塾大学のグローバル COE「論理と感性の先端的研究教育拠点」では、これまで医、理系の研究機関、部局に設置されることが多かったfMRI(3テスラ)を導入した。これにより、文理融合が促進され、多くの研究成果を期待できる。この点こそ、このグローバル COE の存在意義があると考えている。しかしながら、文系の教員、若手研究者、大学院生、学部生は脳について十分な知識を持っていないことが多い。そこで全24回の連続講習会を実施しつつある。

講師は慶應義塾文学部心理学専攻の教員(渡辺、小嶋、梅田)

と外部の脳研究者である。今後の予定者も含めて紹介すると、中村克樹(国立精神神経センター)、泰羅雅登(日本大)、武田克彦(国際医療福祉大)、丹治順(玉川大)、伏見貴夫(北里大)、杉下守弘(新潟リハビリテーション大学院大)、田中啓治(理化学研究所)、渡邊正孝(都神経科学総合研究所)が専門の領域の話題を1ないし2回提供する。13回までのテーマを紹介すると、脳の基礎知識(小嶋)、自己と脳(小嶋)、行為と脳(2回、泰羅)、脳の統合・実行機能(2回、小嶋)、情動と脳(2回、中村)、記憶と脳(2回、梅田)、視空間失認(武田)、社会的認知と脳(2回、梅田)である。

この講習会で得た知識を生かしながら、fMRIを使用して、人間の心と脳の関係について新しい知見が生まれることを期待している。そして、文理両系の知識、技術を身につけた若手研究者を育てることを目指している。(小嶋祥三)